

ミュージカルと飲食の新たな挑戦

# 東急シアターオーブのビュッフェ『シアターバー』ほか、 『シアターテーブル』『シアターコーヒー』をトランジットジェネラルオフィスが出店！

## メニュー監修は予約の取れない超人気店『アロマフレスカ』原田慎次シェフ！！

株式会社東急文化村は、2012年7月18日に開業する「東急シアターオーブ」(渋谷ヒカリエ11階)のビュッフェ『シアターバー』の運営を株式会社トランジットジェネラルオフィス(以下、同社)に委託することを決定しました。大人気店「bills」や「メルセデス・ベンツ コネクション」のカフェ&レストラン、カフェ「Sign」など常に話題を席卷するカフェをプロデュースしてきた同社が、「渋谷ヒカリエ」では「エンタテインメント」をキーワードに、駅直結のミュージカル劇場「東急シアターオーブ」と新たな挑戦をします。地上70mの眺望が楽しめる『シアターバー』では、コーヒー、ワインなどのほかに、ミュージカルの演目にちなんだ特別メニューを用意し、観劇の感動や高揚感をさらに盛り上げます。



シアターバー CGはイメージです。

また同社は、2012年4月26日、「東急シアターオーブ」の入口である渋谷ヒカリエ11階に、

大型モダンイタリアンダイニング『シアターテーブル』と、コーヒースタンド『シアターコーヒー』をオープンします。

『シアターバー』と同様、「東急シアターオーブ」と連動しながら、こけら落とし演目となる『ウエスト・サイド・ストーリー』や第2弾のロックンロール・ミュージカル『ミリオンダラー・カルテット』にちなんだオリジナルメニューや、観劇と食事のセットメニューなど、多くのお客様に観劇の楽しさと快適さを訴求していきます。

『シアターテーブル』『シアターバー』のフードメニュー監修は、東京で最も予約が取りにくいミシュランガイドの一つ星に選ばれたイタリアンレストラン『アロマフレスカ』の原田慎次シェフが手がけます。絶大な人気を誇る原田氏が開発する、劇場と連動した遊び心満載のメニューが、大きな話題・魅力の一つとなり、渋谷ヒカリエの複合施設としての価値を高めます。

正式名称 / 日本語正式名称 / 席数

THE THEATRE BAR / シアターバー(14階劇場内)

THE THEATRE TABLE / シアターテーブル(11階劇場入口)/160席(内、テラス20席)

THE THEATRE COFFEE / シアターコーヒー(11階劇場入口)/26席

メニュー監修:アロマフレスカ 原田慎次 (プロフィール別紙1)

トランジット、東急シアターオーブ概要、渋谷ヒカリエ概要については、別紙をご参照ください。



シアターテーブル内装 CGはイメージです。

以上

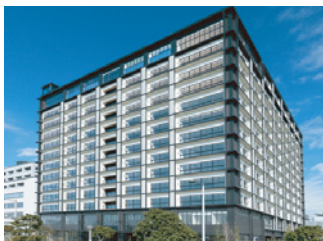
# TRANSIT GENERAL OFFICE INC.



代表取締役 中村貞裕

“ファッション、アート、デザイン、音楽、食をコンテンツに遊び場を創造する”をコンセプトに2001年設立。代表取締役社長は中村貞裕。ブランディングプロデュース事業（空間・コミュニケーションデザイン・ファッション）、飲食及びホテル等オペレーション事業を中心に Signをはじめとするカフェのプロデュース、運営を手掛ける他、GUCCI、JILLSTUART、DIESEL、メルセデス・ベンツなど数多くのブランドのカフェ運営を行う。近年では世界一の朝食「bills」の運営、大阪の「堂島ホテル」、世界最大級のレンタルオフィスビル「the SOHO」のブランディングプロデュースなど多岐にわたる。「メルセデス・ベンツ コネクション」、「THE MONOCLE CAFE」など話題の遊び場を創造すべく日々精力的に活動中。また、イベント事業（イベント・ケータリング・ウェディング）、スイーツ事業、人材紹介事業、人材派遣業など空間創造総合企業としてグループ会社も設立。

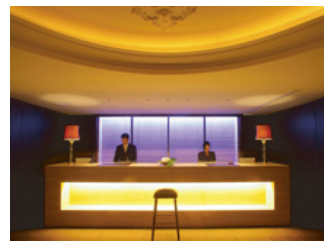
## Branding Produce



the SOHO  
[OFFICE BUILDING]



BECON Tower Residence  
[RESIDENCE]



DOJIMA HOTEL  
[HOTEL]



TABLOID  
[CREATIVE SPOT]

## Operation



Sign  
[CAFE]



OFFICE  
[CAFE]



KITAAOYAMA SALON  
[BAR]



TOKYO SWEETS FACTORY  
[SWEETS]



hills cafe  
[CAFE]



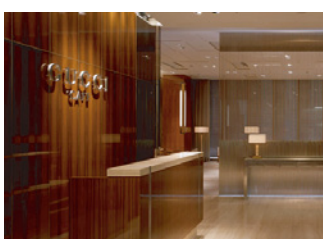
Glorious Chain Cafe  
[CAFE]



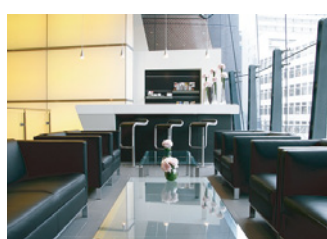
UPSTAIRS - Mercedes-Benz Connection  
[RESTAURANT]



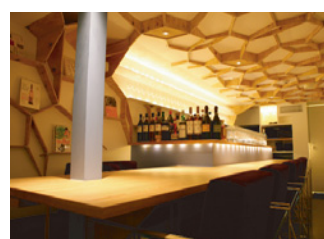
bills  
[RESTAURANT]



GUCCI CAFE  
[CAFE]



AUDI CAFE  
[CAFE]



lucien pellat-finet cafe  
[CAFE]



JILL STUART CAFE  
[CAFE]

## 原田慎次



日本唯一の人気と実力を誇るカーザ・ヴィニタリア／アロマフレスカの原田慎次シェフ。彼の店は東京でもっとも予約が取りにくいイタリアンレストランのひとつであり、ミシュランの星も獲得している。

1969年栃木県足利市生まれ。A型

六本木「チーノ」で修業を積む

青山「ジリオーラ」で4年間シェフを務める。

1998年「アロマフレスカ」をオープン 28歳※広尾「アロマフレスカ」の共同経営者は「ジリオーラ」のサービスだった田沢氏

2001年「カフェ アロマティカ」(西新宿)

2002年「エッセンツァ」(丸ビル) パスタ専門店

2003年『アロマクラシコ』(品川)

2005年『カーザ・ヴィニタリア』(麻布)

2005年『カフェ クラシカ』(ecute 品川)

2007年『アロマフレスカ』(名古屋・松坂屋)・2007年茶寮和び(熱海)

2007年アロマフレスカがミシュランで1つ星を獲得

2010年『アロマフレスカ』麻布十番から銀座に移転、『サーラ・アマービル』も隣に同時オープン

2011年『アロマフレスカ』(博多)

1969年、栃木県足利市生まれ。東京・六本木「チーノ」で修業を積み、青山「ジリオーラ」シェフを経て、98年、共同経営で広尾に『アロマフレスカ』をオープンし、3ヶ月先まで予約の取れないレストランとして注目を浴びる。2001年、西新宿にパスタ専門店『カフェ アロマティカ』をオープン。そして2003年、大勢のファンを魅了していた『アロマフレスカ』を惜しまれながらも一時閉店としたものの、2年後、麻布に『カーザ・ヴィニタリア』を、数ヶ月後には、同店舗内で、新生『アロマフレスカ』をオープンさせた。さらには名古屋の松坂屋本店内に『アロマフレスカ』を開くなど現在計8店を擁する。フレンドリーなサービスと素材の旨味を十分に引き出した料理が人気を博し、素材を生かし、シンプルでありながら独自の発想で生み出されるイタリア料理の数々は、本場を知る人からも“世界のどこにもない本当のイタリア料理”と評され雑誌、テレビなど、多方面において活躍中。著書に『ごちそうパスタ』、『ストウブで、わが家は週末レストラン』、『カーザ・ヴィニタリア』、『アロマフレスカ』の Pastaブック』、『東京広尾アロマフレスカの厨房から』など。

<別紙2>

「東急シアターオーブ」(以下、当劇場)の施設概要

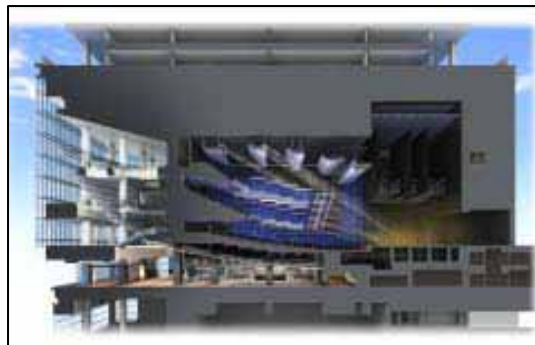
当劇場は、渋谷ヒカリエの11～16階に位置する、総客席数1,972席(1～3階席)の劇場です。地上約70mの高さから渋谷の街を一望できる開放的なホワイエと、浮遊感をコンセプトに空の濃紺と雲の白でデザインされた客席空間が当劇場の大きな特徴です。ホワイエから続く中央階段を渡って球形のラウンドフレームをくぐると、濃紺と白の客席空間が突然現れるという、非日常の世界へドラマティックにいざなう導線計画にも留意しました。

当劇場の設計設備計画においては、「電気音響に最適な質の高い音響空間」、「斬新な演出を生み出す懐深い舞台空間」、「多様な演出に対応する強力で柔軟な吊機構」、「新鮮な視覚体験を可能とする新しい照明技術」をテーマに、ミュージカルや音楽劇の新たな魅力を創出する劇場を企図しています。

複合ビル内に位置する当劇場では、最新の建築技術を駆使した浮き床構造による防振遮音対策を施すとともに、舞台照明や美術道具等の搬出入においても、11トン車が停車可能な荷捌きに加え11トン車相当の積載物が搬送可能な大型エレベータが舞台袖まで直通しており、機能面と利便性に十分に配慮しています。



客席イメージ



劇場断面

「東急シアターオーブ」名称、ロゴマークについて

「東急シアターオーブ」の名称は、「天にそびえる劇場」という意味で、“Orb”(球体、古天体、地球)に由来します。渋谷の中心に位置し、近未来的な球体のフォルムと宙空に浮かぶ劇場の特徴、かつての五島プラネタリウムのDNAを引き継ぐ施設としての思いを込めています。

ロゴマークのデザインは、劇場の特徴である球体のフォルムを想起させる「Orb」の3文字を中心に、都会的な洗練さと新しさ、約2,000席を擁する劇場としての品格を表現しています。

TOKYU  
THEATRE  
Orb

<別紙 3>

「渋谷ヒカリエ」の概要

(1) 渋谷を代表する情報発信拠点に相応しい用途構成

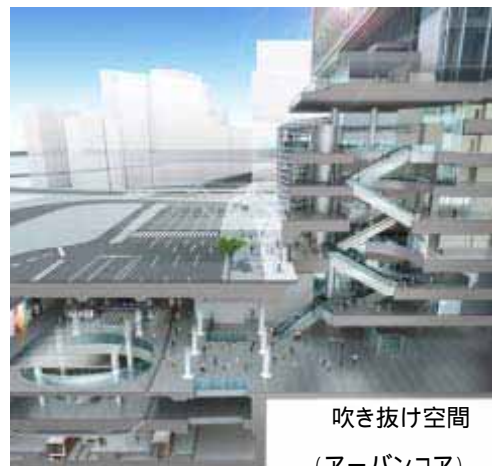
渋谷ヒカリエは、地上34階、地下4階の高層複合施設で、鉄道8路線が乗り入れる日本有数のターミナルである渋谷駅東口に位置します。都内初のプラネタリウムや画期的な大劇場「パンテオン」をはじめとした複数の映画館などで構成され、最先端のライフスタイルを提案してきたかつての東急文化会館のDNAを引き継ぎ、中層部の文化施設には約2,000席の本格的ミュージカル劇場「東急シアターオーブ」、情報発信性の高い様々なイベントに最適な1,000㎡および300㎡のイベントホール「ヒカリエホール」、才能あふれるアーティストの表現の場・クリエイティブ「8/(はち)」を設置しています。またビルの顔となる商業施設には、東急百貨店による新店舗「ShinQs」が出店します。高層部にはオフィスを配し、次の時代を担うような企業を集積させ、建物全体で新たな価値を創造し、街の情報発信拠点となることを目指します。

(2) 渋谷の街全体の活性化、環境を意識した施設計画

渋谷ヒカリエでは、周辺の坂状の地形を活かし、渋谷駅や明治通り、宮益坂、青山方面等、渋谷の街の個性を演出する多様な街と、5つのフロアで接続する歩行者ネットワークを形成するとともに、縦方向の移動を容易にする地下3階から地上4階に亘る吹き抜け空間(アーバンコア)を整備することを予定しています。特に、東急東横線・東京メトロ副都心線渋谷駅とは地下3階で直結するなど、街の交通結節点としての利便性を高めるとともに、周辺街区との回遊性や賑わいの創出を通じて渋谷の街全体の活性化を目的とした計画であることが特徴です。また隣接する渋谷駅の自然換気機能を内包し、敷地面積の約30%を緑化するなど、先進の環境性能を備えています。



施設外観パース



吹き抜け空間  
(アーバンコア)

### 「渋谷ヒカリエ」名称・ロゴマークについて

「渋谷ヒカリエ」という名称は、「新しい文化を輝かせる光」という意味で、日本語の“Hikari”（光）+ “～へ”に由来します。東急文化会館の文化性・先進性というDNAを受け継ぎ、渋谷の街から新しい文化を発信させるという強い気持ちを込めました。この建物とここに集まる人々、ひいては渋谷という街が、今後長きにわたって文化・ビジネスの新たな発信の中心として光り輝き、世の中を変えていく光になる、という意志も込めています。

ロゴマークのデザインには、渋谷のリーディングプロジェクトとして、未来へ導く牽引感を表現すること、「渋谷ヒカリエ」という名称のもつスタイリッシュで現代的なイメージを表現することを企図しました。丸みを帯びた細い書体と光り輝く明るいゴールド色で、渋谷のもつ自由な発想を許容する風土や、多様な価値観が交じり合い新たな価値を生み出せる柔軟性を、また、文字「Hikarie」に下から光を照らし、ロゴが昇るイメージを表現しています。

Shibuya Hikarie

## &lt;別紙 4&gt;

## 計画建物の概要

事業主体	渋谷新文化街区プロジェクト推進協議会 東京急行電鉄株式会社 東京地下鉄株式会社 東宝不動産株式会社 田中ビル株式会社 嘉栄ビル株式会社 株式会社ヒラゼンビル
所在	東京都渋谷区渋谷二丁目21番地ほか
用途	商業、オフィス、文化施設、駐車場ほか
敷地面積	約9,640m <sup>2</sup>
延床面積	約144,000m <sup>2</sup>
用途別面積	商業 約32,000m <sup>2</sup> オフィス 約50,000m <sup>2</sup> 文化施設 約24,000m <sup>2</sup> その他 約38,000m <sup>2</sup>
階数	地上34階、地下4階
高さ	約182.5m
予定工期	本体工事 2009年7月～2012年春 関連工事 2012年春～2017年春
設計	株式会社日建設計・株式会社東急設計コンサルタント共同企業体
施工	東急・大成建設共同企業体
開業	2012年4月26日(木)(予定) 商業施設及び一部文化施設

## フロア構成

地下3F～地上5F	商業施設「ShinQs」
6F～7F	レストランフロア
8F	クリエイティブ「8/(はち)」
9F～10F	イベントホール「ヒカリエホール」
11F	スカイロビー(オフィス・劇場エントランス)
11F～16F	劇場「東急シアターオーブ」
17F～34F	オフィス



渋谷ヒカリエ完成後俯瞰イメージ



計画位置図